

2019 年度 教育実習 I 〇〇科学習指導案

日 時：2019 年〇月〇日（〇）第〇校時

授業会場：〇年〇組教室

授業者：〇〇語科〇番 〇〇 〇〇

指導教諭：〇〇 〇〇 教諭

1 単元名 〇〇（〇〇 〇年）

2 単元の目標

(1) 知識及び技能

①～することができる。

(2) 思考力、判断力、表現力等

②～することができる。

③～することができる。

(3) 学びに向かう力、人間性等

④～ようとしている。

3 単元展開

（全〇時間中 第〇時）

学習活動	◇指導・助言 ◆予想される生徒の姿	評価規準	時間
1	◇ ◆ ◇ ◆	・ 【】	1
2	◇ ◆ ◇ ◆	・ 【】	1
3	◇ ◆ ◇ ◆	・ 【】	1 （本時）
4	◇ ◆ ◇ ◆	・ 【】	1

4 本時案

1 主 眼

2 本時の評価規準

3 展 開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	◇教師の指導・援助	時間	備考	
導 入 ／ 展 開 ／ 終 末	1	ア	◇ ◇○のような反応から学習問題を設定する。	分		
		イ				
		ウ				
		学習問題：				
	2	エ	◇ ◇○のような反応から、学習課題を設定する。	分		
		オ				
		学習課題：				
		3				カ
	キ					
	ク					
ケ						
4	コ	◇ ◇	分			
	サ					
	シ					
	本時の評価規準に達していない生徒への手だて ① ②					
4	ス	◇ ◇	分			
	セ					

4 反省

2019 年度 教育実習 I

理科学習指導案

日 時：2019 年 9 月 10 日（火）第 2 校時

授業会場：第 1 理科室

授業者：理科 7 番

指導教諭：

1 単元名 物体のいろいろな運動（東京書籍 p.112）

2 単元の目標

(1) 知識及び技能

- ①物体にはたらく力によって、物体の運動の様子が規則的に変化することを理解できる。
- ②記録テープを使って実験し、運動の変化の様子を表やグラフなどで適切に表すことを習得できる。

(2) 思考力、判断力、表現力等

- ③物体の運動に関する実験を見通しをもって行い、結果を分析、解釈し、はたらく力と運動について規則性を見いだす。
- ④個々の実験の考察を生かして、結果を予想したり、複数の結果から誤差を考慮し、適切に運動の変化を見いだしたりできる。

(3) 学びに向かう力、人間性等

- ⑤日常生活の様々な運動に興味をもち、実験し、実験結果の妥当性を検討しながら探究する意欲を高める。

3 単元展開

（全 7 時間中 第 7 時）

学習活動	◇指導・助言 ◆予想される生徒の姿	評価規準	時間
1 向きと速度の変化を分類し、瞬間の速さと平均の速さを考える。	◇日常生活において、向きと速さに着目し、運動を分類したり、運動の速さがどう変化しているかを考えるよう促す。 ◆ボールのように、向きと速さも変化する場合もあれば、人工衛星のように向きだけが変化する運動もあることが分かった。	①物体にはたらく力によって、物体の運動の様子が規則的に変化することを理解できる。【知識、技能】	1
2 記録タイマーを使って、自分が歩いたときの速さの変化について調べる	◇記録タイマーの扱い方を確認し、自身の歩行はどのような運動であるか予想して実験を行う。 ◆同じような歩き方でも、一人一人のグラフは違った結果になった。しかし、テープの長さが長くなり、加速していく動きは共通していることが分かった。	②記録テープを使って実験し、運動の変化の様子を表やグラフなどで適切に表すことを習得できる。 【知識、技能】	1
3 斜面を下る台車や垂直に落下する物体の運動の特徴について実験し、グラフを基に考える。	◇斜面を下る台車の運動には、どのような特徴があるのか、台車にかかる力とグラフの形に着目し考えるよう促す。 ◆だんだん加速して、グラフは比例になることが分かり、斜面方向には一定の力が働いているからだと考えられる。 ◇物体を落下させたとき、どのような運動をするのか、重力が一定であることから物体の運動を推測して実験して確かめるようにする。 ◆斜面を下る運動と同じで、重力が一定なので、速さが一定で加速して、傾きは急で一直線に伸びるグラフとなる。	③物体の運動に関する実験を見通しをもって行い、結果を分析、解釈し、働く力と運動について規則性を見いだす。 【思考力、判断力、表現力】	3
4 斜面をのぼる台車の運動の特徴について実験し、グラフを基に考える。	◇進行方向と逆向きの力がはたらいている台車はどのような運動をするのか、かかる力とグラフの変化の関係に着目して調べるように促す。 ◆逆向きに一定の力がはたらいているから、斜面を上る運動でも、手ぬぐいを使って摩擦をかける運動でも同じように、速さが直線的に減少していくことが分かった。	④個々の実験の考察を生かして、結果を予想したり、複数の結果から誤差を考慮し、適切に運動の変化を見いだしたりできる。 【思考力、判断力、表現力】	1
5 水平な面上での台車の運動の特徴について実験し、グラフを基に考える。	◇水平な面上での台車の運動はどのような特徴があるのか、実験結果のグラフを基に考えさせる。 ◆水平な面上では、摩擦があるので少しグラフは右肩下がりになっているが、摩擦がない面上では速さがずっと変わらず運動するのではないかと考えられる。	⑤日常生活の様々な運動に興味をもち、実験し、実験結果の妥当性を検討しながら探究する意欲を高める。【学びに向かう力、人間性等】	1 （本時）

4 本時案

1 主 眼

水平な面上で物体はどのように運動するのか考える場面で、段階的に摩擦を減らして、水平面での台車の運動を調べることを通して、摩擦のない水平な面上で力を受けずに運動する物体は、運動の速さが変化せず、等速直線運動を続けることを理解することができる。

2 本時の評価基準

摩擦のない水平な面上で力を受けずに運動する物体は、運動の速さが変化せず、等速直線運動をすることを理解することができる。

3 展 開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	◇教師の指導・援助	時間	備考
導 入	1 本時の学習の見通しをもつ。	ア 力が進行方向と逆向きにはたらいいて、速度が一定で減少していた。 イ 逆向きだとだんだん減速して止まったから、今度は止まらないのだろうか。 ウ 水平な面を動く台車はどのような運動をするのだろうか。	◇力が逆向きにはたらく運動について学習したことに触れ、水平な面上では台車がどのように運動するのか疑問を持たせる。 ◇イのような反応から学習問題を設定する。	10分	フラッシュカード、ワークシート
		学習問題：水平な面上で物体はどのような運動をするのだろうか。			
展 開	2 水平面での台車の運動を調べる。	エ 力が加わっていないから、最初の速さは変わらず運動すると思う。 オ 現実的には、摩擦によりグラフは少し右肩下がりになるが、理想的には速さの変化はなく、グラフは水平になると思う。 カ 少しざらざらな面と、つるつるな面のグラフを比較すればよい。	◇力学台車を目の前で2回走らせ、全員で動きを確認した上で学習問題を考えるようにする。 ◇摩擦を徐々に減らし比較したら、摩擦が無い場合も考えられそうだということを確認する。 ◇力などから、学習課題を設定する。	25分	力学台車、記録タイマー、記録テープ、はさみ、のり、セロハンテープ、ドライアイス、軍手、短冊用紙、つるつるな板
		学習課題：段階的に摩擦を減らして、水平面での台車の運動を調べよう。			
開 末	3 結果を確認し、考察をする。	キ ドライアイスを滑らせたときは、減速がほぼなく、水平に動いていた。 ク 厚紙で実験し、グラフを作成すると、少しずつ一定に速さが減速している。 ケ 机の上で台車を動かすと、厚紙よりは速さは減少しないが、それでもグラフはわずかに右肩下がりになっている。 コ つるつるな板で実験すると、ほんのわずかに速さの減少がある。でも、他の二つよりは少ない。 サ ドライアイスを滑らせたときはグラフがほぼ水平になった。 シ グラフの結果から、厚紙、机、つるつるな板、ドライアイスの順に、物体の減速はなくなってきている。	◇実験内容を説明する。 ・記録タイマーを使い、厚紙、机、つるつるな板の各水平面上を台車を押し出した後の台車の運動を記録する。 ・実験は、班ごとに手分けしてグラフを作り、後ろに張り出す。 ◇摩擦が少ないドライアイスの運動は、演示し、全体で確認する。 ◇机間巡視の際に、実験に困っている生徒に、手順を説明する。 ◇実験室の後ろのボードに各項目ごとに張り出す。 ◇誤差を考慮しながら、4種類の結果を比較して、共有する。	10分	
		ス 4種類の実験から、水平面での運動は、摩擦によって速さがわずかながら減速していくが、摩擦が無くなるほど、減速は減り、グラフは水平に近づくと分かった。 セ 実験から、摩擦が完全になくなった場合を考えると、速さがずっと一定で、グラフも変化しない運動が続くと考えられる。	◇4種類の実験から、それぞれの結果を比較検討するとどのようなことが言えそうか、考察するように促す。 ◇摩擦のない水平な面上で運動する物体は力を受けず、運動の速さとが変化しないことを考察している生徒に指名し、全体で共有する。		
終 末	4 本時の振り返りをする。	本時の評価基準に達していない生徒への手だて ①摩擦力の低下に伴って、少しずつグラフが水平に近い状態にあり、速さの変化が減っていくことを共に考える。 ②力を加えれば、その分速さや運動の向きが変化し、グラフにも変化が現れることを確認し、それと本時の運動を比較から共に考える。			
		ソ 摩擦がないと速さが変わらずに運動すると分かった。ボウリングなどの球がそうだ。車のように、力を出せば、摩擦があっても見かけは同じになる。 タ 宇宙空間など、真空の場合はどのように運動するのか、さらに調べてみたい。	◇本時の振り返りをワークシートに記入させ、発表させる。 ◇ソやタのように、日常生活と関連して等速直線運動について振り返っている生徒を全体で取り上げ、共有する。	5分	

4 反省

ここのフォントや行間は、いじらない

研究授業指導案注意事項

2017 年度 教育実習 I 国語科学習指導案

1 枚目統一事項

- ・フォントは枠外文字は 10.5pt、枠内文字は 9pt～10.5pt を厳守する。
- ・行間は、枠外箇所は固定値 14pt から 1 行まで、枠内箇所は固定値 11pt から 14pt までを厳守する。

第 3 校時

1 単元名 君待つと―「万葉・古今・新古今」から（光村図書 3 年）

2 単元の目標

単元展開に幅を取られる場合、単元名と単元の目標の間、単元の目標と単元展開の間の空行を省いてよい

(1) 知識及び技能

- ①和歌の特徴を理解することができる。

(2) 思考力、判断力、表現力等

- ②それぞれの和歌における語句の使い方を基に、和歌の内容をとらえることができる。

(3) 学びに向かう力、人間性等

- ③和歌を読み深めていこうとしている。

3 単元展開

（全 4 時間中 第 3 時）

学習活動	◇指導・助言 ◆予想される生徒	単元展開作成の上での重要事項	時間
1 曲「高嶺の花子さん」に込められた思いと一番通じる和歌はどれか一首選ぶ。	◇和歌に込められた詠み人の感情を考える。 ◆和歌「思へども」には恋しく思っても仕方がないでも思い続ける一途な感情が込められている人との幸せを夢見つづけてそれを頼りに今いる切ない思いが共通しているのではないかと。37 音という限られた音数の中に込められる思いは深い。他の和歌もその深さに出会いたい。	・生徒の意識に沿って単元をデザインすることができる ・つけたい力との関連が取れている	
2 「君待つと」に込められた思いがプラスかマイナスか、考える。	◇「秋の風」など和歌の中の言葉のイメージから、和歌に込められた思いを考えるように促す。 ◆「秋の風」は冷たくて寂しい感じがするので、この歌はマイナスの感情の歌だと思う。 ◇和歌に対する自分の解釈をまとめる。 ◆「秋の風」は初秋の風で心地良い風だと思う。そういったさわやかさと、せめて気持ちだけでも風に乗せて届けてくれたことへの喜びだと思う。	②「恋居れば」や「秋の風」に表される想いを明らかにしながら、和歌の解釈を自分なりにもっている。【思考、判断、表現】	1
3 「風をだに」に込められた思いが「羨望」「皮肉」「嘆き」のどれかについて考える。	◇「風をだに」を提示する。 ◆続けて詠まれた歌があるのか。額田王を羨ましいと思う気持ちがあるように感じられる。 ◇和歌の言葉や表現をもとに考える。また、追究の途中で背景を記載した資料を配付する。 ◆和歌にこめられた思いは「羨望」だと思う。夫が亡くなって待つことができない自分に比べ、恋する相手を待てる妹を羨ましいと感じる思いが「風をだに」と 2 回くり返すところに表れていると考えた。	②三つの解釈の仕方それぞれに根拠があることを捉えた上で、自分の考えを説明している。【思考、判断、表現】	1 (本時)

4 和歌に対する自分の考えをまとめる。	◇第3時までを基に、自分の考えをまとめる。 ◆31音という少ない音数の中で、言葉を精選し、自らの思いを乗せきる、これが和歌だと思う。ただし、詠み人は、乗せきるけども、その全てを私たちは受け取ることができない。そこもまた魅力だと思う。読んだことを基に世界や思いを思い描く、そこに詠み人との会話が生まれる。そのような和歌の魅力の一端に触れられたと思う。	①限られた音数の中で表現したことを読む繊細さと広がり大きさを和歌の特徴として理解している。【知識・技能】	1
---------------------	---	--	---

4 本時案

1 主 眼

和歌「風をだに」が「羨望」「皮肉」「嘆き」どの思いを込めたものなのかを考える場面で、和歌に用いられた言葉や表現を基に検討することを通して、三つの考えを説明することができる。

2 本時の評価規準

三つの解釈の仕方それぞれに根拠があることを捉えた上で、自分の考えを説明している。

3 展 開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	◇教師の指導・援助	時間	備考
導	1 本時の学習の見通しをもつ。	ア 風が吹いただけで恋しく思えることを羨ましいと言っている歌だと思う。 イ マイナスの感情だと考える友もいるが、わたしにはむしろ羨ましいというプラスの感情を言っているように感じる。 ウ 「羨望」や「皮肉」、「嘆き」といった様々な感情が挙がった。実際はどのような感情が詠まれた和歌なのだろうか。	◇「君待つと～」を踏まえて詠まれた和歌であることを押さえた上で、「風をだに～」を提示する。その後、どのような和歌が全体で確認する中で、「羨望」「皮肉」「嘆き」という感情をキーワード化する。 ◇ウのような反応から学習問題を設定する。	10分	フラッシュカード
	入	学習問題：和歌「風をだに」は「羨望」「皮肉」「嘆き」、どの思いをこめて詠まれたものだろうか。 エ 「羨もし」という言葉が「羨ましい」という意味だから「羨望」だと思う。 オ 「羨もし」を根拠にして考えたように、和歌の中の語句や表現の仕方にこだわって読むことで、考えに確かさが生まれる。	◇どの立場だと考えるか、またその理由について数人の生徒に発言を促す。 ◇オのような反応から、学習課題を設定する。		
		学習課題：和歌の言葉や表現をもとに検討しよう。			
展	2 個人追究をする。	カ 「羨もし」から「羨望」だと思ったが、「だに」という言葉に「羨望」の要素がない。「だけ」という意味をもつ「だに」は「皮肉」の感情ではないか。 キ 最後の「…か～む」は反語という表現技法が使われていて、嘆いていることへの否定の気持ちが強く伝わってくる。やはりマイナスの感情が詠まれた和歌なのか。皆はどう考えているのか。	◇一つの言葉や表現だけを取り上げて考えをまとめている生徒には考えを狭めないように和歌全体にも目を向けるように促す。 ◇使われている表現技法について質問があれば、全体に説明する。 ◇机間巡視の際に、同じ言葉や表現を根拠にしながら捉えが異なる生徒を把握しておく。	10分	ワークシート
	3 全体追究を行い、自分の意見をまとめる。	ク Aさんは、「羨もし」という言葉と「風をだに」の繰り返しから、「羨望」だと考えていた。確かに2回繰り返されている。風でさえ恋しく思える額田王を羨む気持ちが込められているかもしれない。 ケ Bさんは、その2回の繰り返しこそ、「皮肉」だと主張していた。最後の否定の要素から、「皮肉」も未だありうる。 コ 自分の夫を失った後に詠まれた和歌だとすると、「羨もし」や「風をだに」という言葉は「嘆き」の感情に思えてきた。 サ 作者の鏡女王が額田王の姉であるなら、妹に対して皮肉を言ったりするのだろうか。純粋なる恋敵ではなく、姉妹だ。 シ 和歌にこめられた思いは「羨望」だと思う。夫が死んで待つことができない自分に比べ、恋する相手を待てる妹を羨ましいと感じる思いが「風をだに」と2回くり返すところに表れていると考えた。	◇これまでの個人追究を基に、どういった語句、表現から気持ちを捉えたのかを明らかにしながら全体で意見を発表するように促す。 ◇「羨望」「皮肉」「嘆き」それぞれの根拠と理由を黒板にまとめ、友の意見を生徒が整理しやすくする。 ◇前回の読み取りよりさらに一段階上の読みを目指すため、当時詠まれた背景が説明された資料を配付し、当時の視点を踏まえると和歌の捉え方はどうなるかを考えるように促す。ただし、この時、読みを一つに定めるための資料ではないことを確認する。 ◇再度意見の共有をし、現代の視点と当時の視点を踏まえた上で、最終的な自分の考えをまとめるように促す。	20分	
開		本時の評価規準に達していない生徒への手だて ①和歌から根拠を見つけられていない生徒には、「だに」などの言葉や反語によってどのようなイメージが沸くかを問う。 ②当時の背景に対するイメージが浅い生徒には、現代の恋人関係や夫婦関係に置き換えて説明し、イメージが沸くようにする。			

2 枚目統一事項

- ・フォントは枠外文字枠内文字ともに 9pt～10.5pt を厳守する。
- ・行間は、枠外枠内ともに固定値 11pt から 14pt までを厳守する。

／ 終 末	4 本時の振り返りをする。	ス 前時に比べて背景を捉えても和歌の解釈が絞れずに、友と議論を交わしながら考えを深めることができて面白かった。 セ 読み深めるべきところまで読む楽しさと、そこから先の読みの自由さが面白く、和歌の魅力の一つが分かった。	◇本時の振り返りをワークシートに記入後、発表するように促す。 ◇スやソのように、和歌を読み深めたことや読みの多様さへの感想をもつ生徒を全体で取り上げ、共有する。	10 分	
-------------	---------------	--	--	---------	--